

本草圖譜

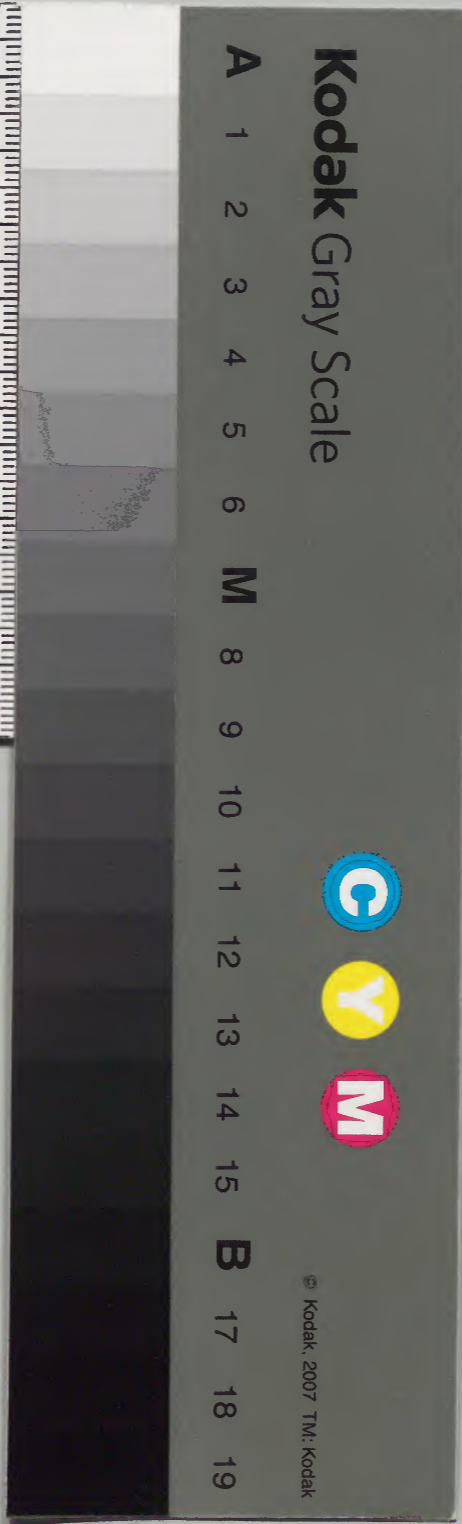
卷之五十九

和書門			
三	六	六	類
四	五	冊	架
冊	架	函	號

庫	文	閣	內
九	三	六	和
六	四	六	書
函	五	六	類
二	冊	號	
架	冊	架	

植物
8
27

內閣文庫	
番號	和 356
冊數	45 (27)
函號	196 189





本草圖譜卷之五十九目錄

菜部 芝栴類



蘇菰すまひ 藁わら

ふてたけ

むすたけ

同

ろくたけ

むさるま

同

めみたけ

牡丹ぼたん 多た け

雪ゆき だけ

まいたけ

同

同

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
おろしたたき	ほろたき	まいだけの一種	なくあたき	さくほんよちま	鶏糞	ねつみたけ二種	木のえりき	むせいた	まいりけ
六	七	四	九	十	十一	十二	十三	十四	十五
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
まいだけ	まいだけ	まいだけ	まいだけ	まいだけ	まいだけ	まいだけ	まいだけ	まいだけ	まいだけ

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
せんかたけ	雷菌	土菌	せんかたけ	雷菌	土菌	せんかたけ	雷菌	土菌	せんかたけ
十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
せんかたけ	せんかたけ	せんかたけ	せんかたけ	せんかたけ	せんかたけ	せんかたけ	せんかたけ	せんかたけ	せんかたけ

同

きつねあけは一種

白きつねあけ

きつねあけの一種

全

全

全

一種

はぎあけ

きつねあけ

仰天葷トウテンコン

あけあけ

全

全

全

あけあけ

何はあけの一種

あけあけ

まくそあけ

こけあけ

一種

いんげんあけ

全一種

ひふたけ

豊後の産
梅奈氏之圖



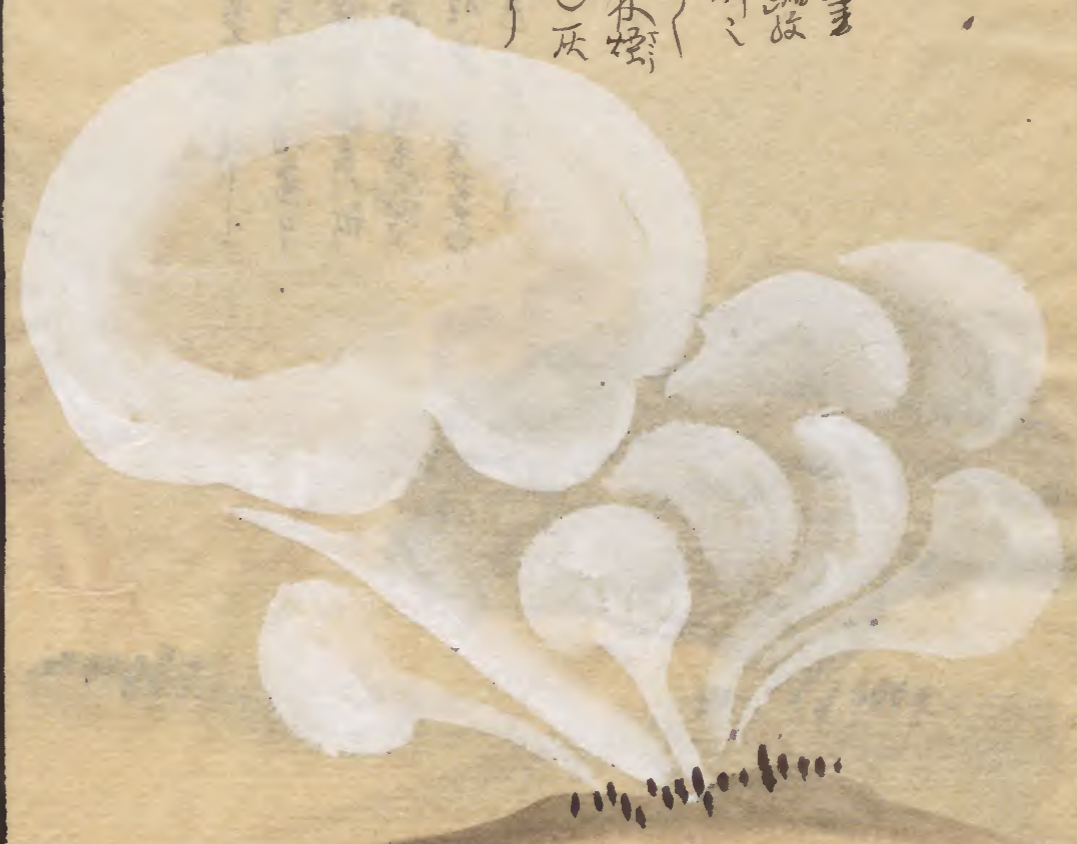
むきたけ

香遠子載之圖菌史之形
銀葉の葉の如くまのたけ
比すれぬ多存色若白嫩
黒子を帯ふ葉の如く柳
の形梅子色に赤黒官錢
吹きくまの如く淡散滑
美より一乾以若に戸
稀子化々れといへり



雪かけ

蕨物^の子^を子^を載^る。因^る蕨^の葉^を子^をを^しま^す
 を引^きて^は蕨^の葉^を子^をの^形に^似て^形の^脊筋^を取^りて^故
 切^りて^一部^を以^て蕨^の葉^を子^をの^形に^似て^形の^脊筋^を取^りて^故
 其^の形^を淨^くと^する^の故^に子^を名^をく^す
 煮^て、別^に煮^るに^不可^な秋^の同^じに^煮ゆ^る
 地^子生^るに^又青^菜及^び合^ふる^も多^し、灰^を
 包^みの^物あり[、]合^ふる^も少^しに^堪へ^りと^す



よこら菜

蕨^の葉^を子^をの^形に^似て^形の^脊筋^を取^りて^故
 其^の形^を淨^くと^する^の故^に子^を名^をく^す
 煮^て、別^に煮^るに^不可^な秋^の同^じに^煮ゆ^る
 地^子生^るに^又青^菜及^び合^ふる^も多^し、灰^を
 包^みの^物あり[、]合^ふる^も少^しに^堪へ^りと^す



ふいふけ

信陽菴湯子菴の園
月書の菴地の菴と
異し、鐵匠池の
物と名を傳へ味既
之なり（一）と云

ふいふけ

同書に菴の園の書
の鐵匠池の
白く古味に成ると云



ふいふけ

昔過に菴の園菴史の形銀葉葉の
似て赤鉄脚菴史一層の園と云
之より及余を多し、三ノ大の者あり、
赤と黄と白と莖と灰黒く又莖を
黒く此れ白の者あり、底別れ菴
史に似たり、橙やく色絶る、
地者即ち一、二、三、四、五、六、七、
八、九、十、十一、十二、十三、十四、
十五、十六、十七、十八、十九、二十、
廿一、廿二、廿三、廿四、廿五、廿六、
廿七、廿八、廿九、三十、三十一、
三十二、三十三、三十四、三十五、
三十六、三十七、三十八、三十九、四十、
四十一、四十二、四十三、四十四、
四十五、四十六、四十七、四十八、
四十九、五十、五十一、五十二、
五十三、五十四、五十五、五十六、
五十七、五十八、五十九、六十、
六十一、六十二、六十三、六十四、
六十五、六十六、六十七、六十八、
六十九、七十、七十一、七十二、
七十三、七十四、七十五、七十六、
七十七、七十八、七十九、八十、
八十一、八十二、八十三、八十四、
八十五、八十六、八十七、八十八、
八十九、九十、九十一、九十二、
九十三、九十四、九十五、九十六、
九十七、九十八、九十九、一百、
秋雨後山中木根根上生る



むさし紀
おのりけ

菌類子載る園
一名猿蓑其花
淡紫味淡落し
九月多く生る食
用は思ふと故
菜とん



むさし紀
おのりけ

つたつた
信陽菌類
子載る園

つたつた

信陽菌類子載る
園つたつたの下
生れ改子名つた
味は帯ふりるとん
とつたり



きまいたけ

蘭語の蘭の白
ちり一名踏躑躅
其色淡紫蘇葉
味甘苦寒 蘇葉
のト為こと



かいたけの一種

日書に載る蘭
ちり状のちり
の似て白ちり
毒切 ちり
へト

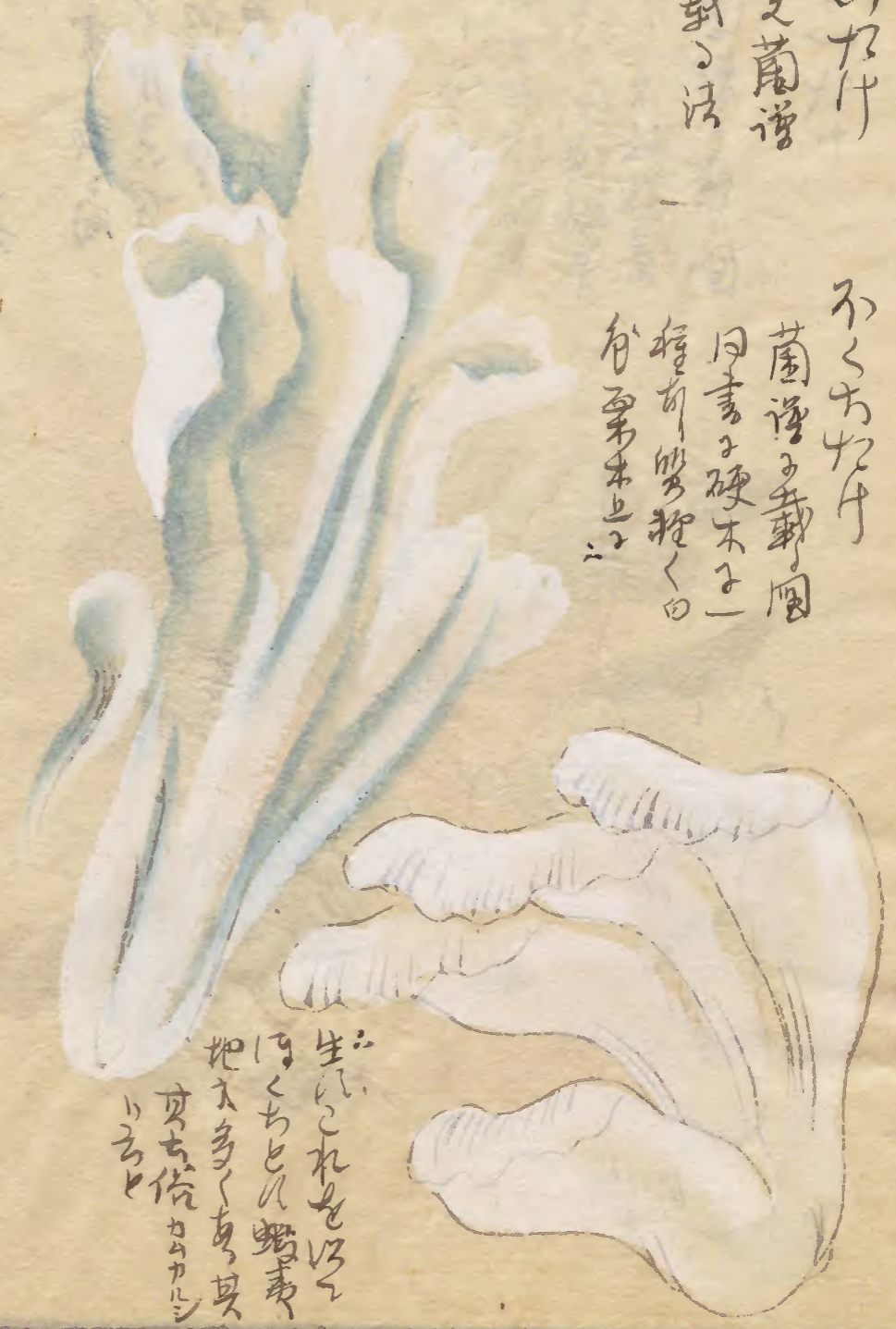


さいたけ

日支蘭譜
の載る法

らくちたけ

蘭譜の載る法
同書に硬木子一
種あり能く白
く染る



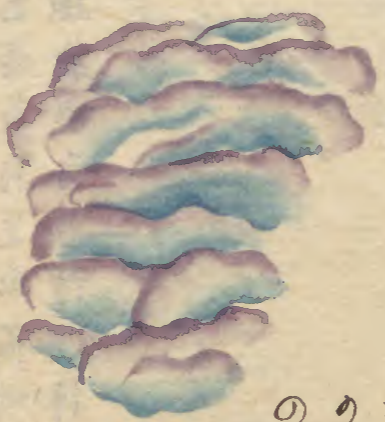
生いこれと以て
らくちといふ
地人多く其
可食佐カラシ
り云と

おせいだ

日光蘭譜
の載る法

木のたけ

蘭譜の載る法同書に深山陰湿
の地を生んる云ふ三寸形木のたけ
のありし其を云と之



せんりんたけ

同書に
載る法



雞塊

集解子時珍雞塊出雲南生沙地間下草之高脚級頭とソへり
因れハ草とソへりトソへり吳林草譜ハ蒼黃也如蒼々一名有黃草
一名雞黃草所謂雞塊者是之產黃山者多純黃色不別生嶺即
於背面綴紋如撮耳口歡齒而可食不張今極美四時俱生山
人所尚とソへり亦皇和羹譜ハ恒廣蕨譜也引て本ハ未大白色
柔軟其中宜虛俗名雞足麻蕨此蓋亦雞塊也本草時珍以雞塊
為下草亦未識雞塊者可謂迂謬也とソへり因て有つたけり

初つみ大け二種

信陽南陽の草を因
蒼黄く形蕨の如し似
たり因てこれを初つみ
とソへり又二種あり其田
草味淡美し草と似
破味有草中物とソへり
食ハハ浮下ハ晒乾
これを食ハハ善也
とソへりこれを採とソへり
野生とソへり



ねのみたけ

菌語に載る菌の書
茎はくちて肥厚く其頭碎
けり草跡の如く色紅紫
茎白色其味甘脆数種あり
純白のもの食あり今も
載る



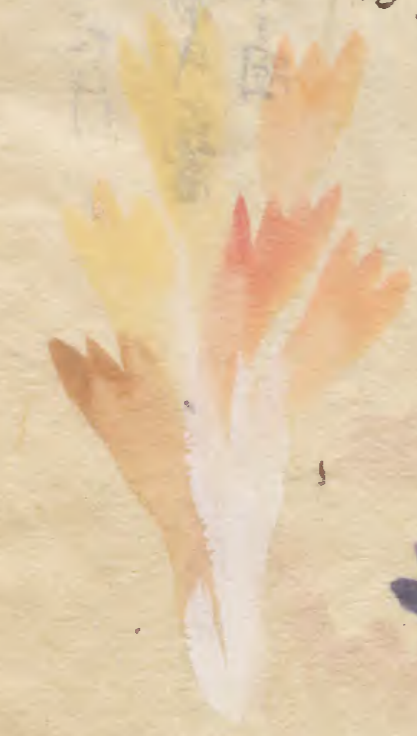
ねのみたけ
日光菌語に
載る

あさきあけ

菌語に載る菌の書
を解けけの属之頭
此は茎白色た食あり
暗弱下洲をとり

あさきあけ

日光菌語
に載る



本草綱目卷之五十一

まきけけ

栗本氏 菫
の 載る 図



まきけけ

菫 史子
の 載る 図



本草綱目卷之五十一

十二

不_レ_レ可_レ_レ也

菌史子載_レ_レ固_レま_レく
山中陰_レ如_レ子_レ多_レ生_レん
一_レ茎_レ分_レて_レ數_レ十_レ條_レ也_レ生
一_レ葉_レの_レ狀_レ似_レ糸_レ也_レ
白_レ色_レ微_レ一_レ黃_レ褐_レを_レ帯
ふ_レ其_レ質_レ柔_レ脆_レ損_レ一
易_レく_レ味_レ甚_レ美_レ也_レ凡_レ此_レ
と_レい_レへ_レ也



福_レつ_レこ_レれ_レけ

武_レ州_レ赤_レ嶽_レの_レ産

せ_レり_レれ_レけ

菌史子の_レも_レ固_レま_レく_レ赤_レ形
の_レ似_レを_レ以_レて_レ名_レく_レ如_レ一_レ如_レり
科_レ生_レ一_レは_レ子_レを_レ延_レ流_レ斥_レ色_レ
微_レ一_レ褐_レ色_レあ_レる_レ凡_レ味_レ甚_レ美_レ也_レ
子_レ似_レて_レ糸_レ也_レと_レい_レへ_レ也



新つとれけ

着過に載る同菌史子形
草の脚似るを以て名ふ
者寸余大者寸許黄白又灰
色紅黒紫淡和濁包あり
微軟味薄能多力なり



ほりたけ

日光菌譜
載る



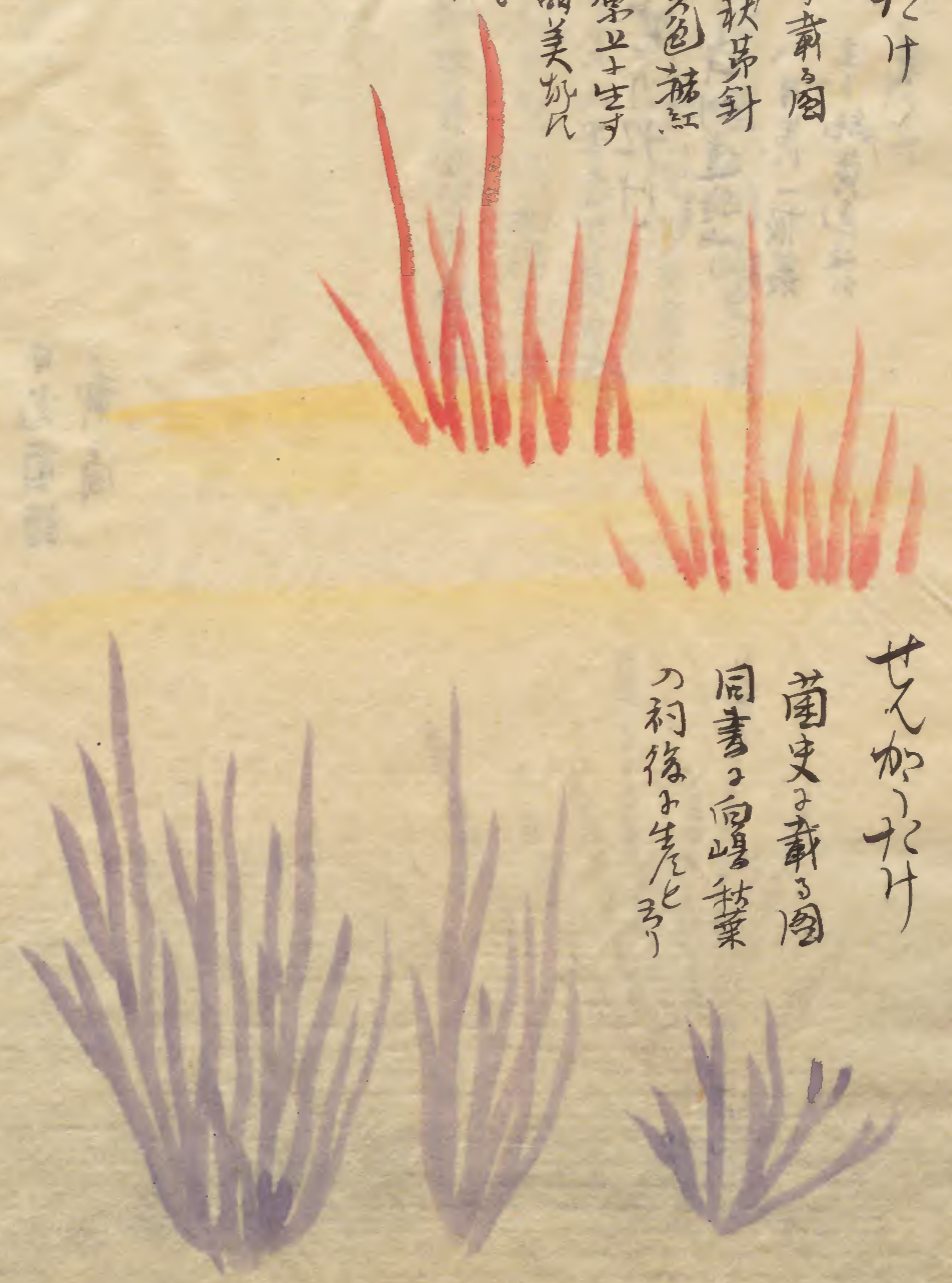
たりにけ

武州道海山
八月生一撮叢
生一純黄色味
美し



せりたけ

蘭譜子載る蘭
同書子秋草針
の如く其色紅
深山草原上生す
其味甜美から
糸と
毒あり
食ふべ
く



せんかたけ

蘭史子載る蘭
同書子向嶺秋葉
の初後生る

せりたけ

蘭譜子載る蘭全
書又其草葉草
と云ふ山中茂密の
地生る鐘草の如
く高さ七寸許り
其色灰黄葉の三枚
あり食ふべしと
いへ又その物成り
東嶽山中の秋月
長く三寸葉生る
味ひつゝ



雷菌らいきん

田村氏の説に肥後方言かきかきと云ふと云大雷菌の後生する木のこころと云
救荒本草野譜に図ありと云和の物目録其れに図あり

船菜ふねさい 加ちたけ

菌史に即ち船のよの生する菌に其種一かたはと云へり田村氏云々
一くおか、またる船より生するとありと云へり此の事と見され
は図あり

土菌

きのこのかき

廢物写生

に載る圖

きはねのかき

看過

載る圖



きのつねのたけ

菌譜に載る菌
同書に標樹林中
みます状なり
の如く線路あり高
寸三四寸黄色柄枯
色くとりへり

きのつねたけの一種

同書に載る菌全書に蓋
堅くもよき色あり山林
道傍に生る毒あり食ふ
べからず



白きのつねたけ

菌譜に載る菌同書に山林
に生る高きものあり
若草に生る白色くとりへり

きのつねたけの一種

菌史に
載る菌



きつねあけの

一種

菌史の
載る図
四月字
すり云



きつねあけの一種

同書に
載る図



きつねあけ

一種

同書に
載る
図



決志あけ

一種

菌史の
載る図

菌譜の載る図
云く其血止の効あり
大いし
蘇蘭のきつねあけ
似て決志を極至
つて長く根あり
黒を日を理て
腐化せん自
然と乾枯す
下と云ふ如し



キノコ

菌類ノ類ノ目
キノコノ類ノ目
生ノ物ノ高ニ三四
寸餘蓋淡赤色
柄茎とシテ淡
黄色切リ大毒
有シ食スルハ
死ス

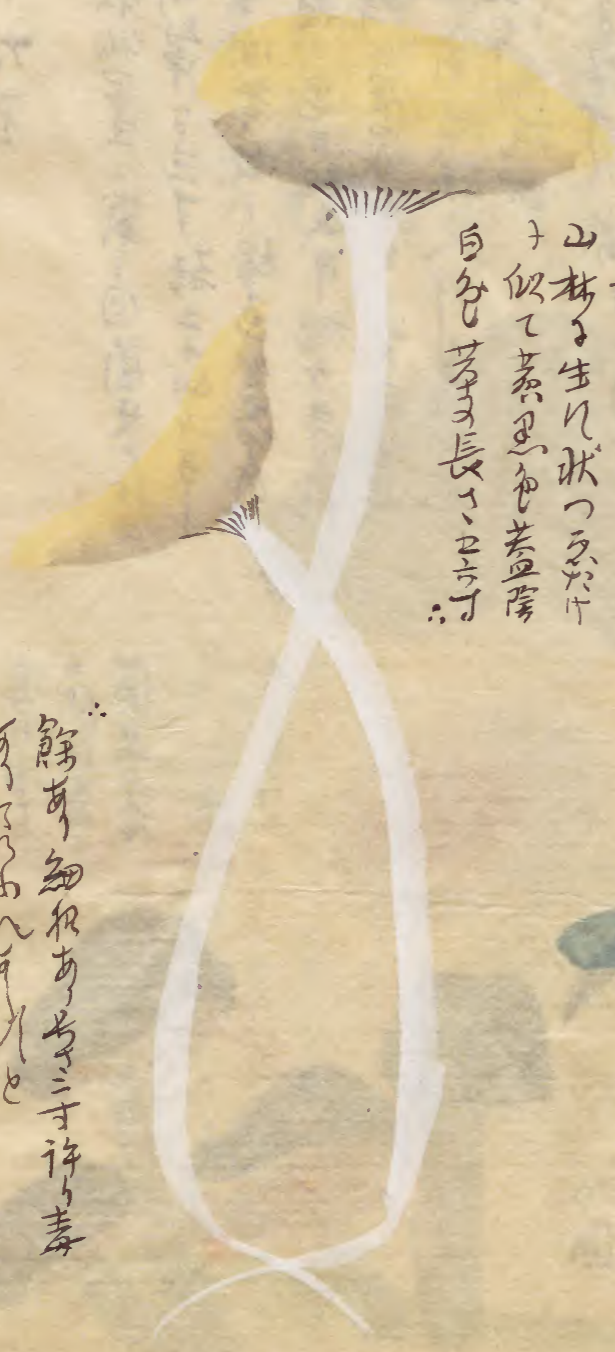
仰天蓴

同書ノ載ル圓同書
ノ山林道傍ノ生スル
状ニ似テ似テ肉
薄柄淡紅色蓋緑色
シテ白環アリクニ食スルハ
見ハ



キノコ

同書ノ載ル圓同書
ノ山林道傍ノ生スル
状ニ似テ似テ肉
薄柄淡紅色蓋緑色
シテ白環アリクニ食スルハ
見ハ



キノコノ類ノ目
キノコノ類ノ目
生ノ物ノ高ニ三四
寸餘蓋淡赤色
柄茎とシテ淡
黄色切リ大毒
有シ食スルハ
死ス

あじだけ

日光菌落
子載る図



まぐろだけ

廢物字生る載る菌使子面大不脚
短く底特燥服を初八面蓋福米
漆の如く底と茎と皆白色積久して
則ち黒むる要り強てこれをもて
ハクを製する三何山ヤ人多く生る記



こしーだけ

看過子載る菌使子綴張て終り
錢の大きさの如く質肥脚短く面深紅
微一紫色を帯ふ背深黄り鮮色乳
有り茎淡紅紫色の細線修り微
雨後樹竹の間生る久し経て
壞れんとす

まくろだけ

看過子
載る図



一種

菌史子載る菌さく番の五月
増上寺中生する如の夏下麦門
冬の様子接く此を復れり白色
俄りて藍色に變れ積久し
則後白しと云り



いくむたけ

香過子載る菌史子亦傍樹木のし生れ
赤いさうたけに似て質瘦面茎皆赤楢
白く微く苦を帯ひ良毒本に性子随ふれ
を食ふ干釋と云り



いくひるけの二種

菌史子
載る菌



本草圖譜卷之六十目錄

菜部 芝栴類

仙人帽

きぬかたけ

一

志けりけ

虚無僧たけ

阿らうたけ

きぬかたけ

安みかきたけ

つきよたけ 二種

三

同

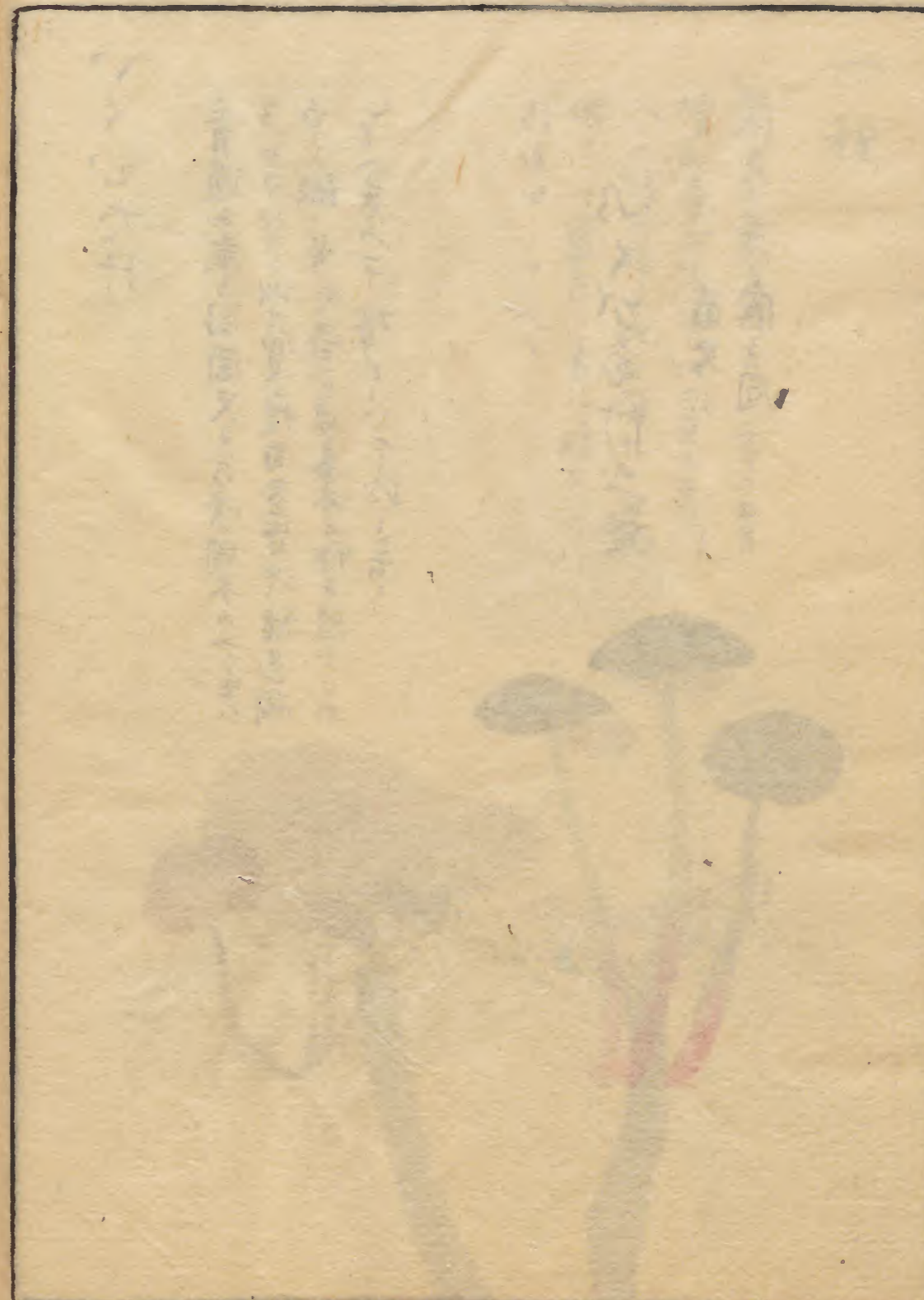
同

四

とくぬき

同

火燭たけ



ひくたけ

全

まぐらたけ

五 てつはれ

あまらたけ

六 全 はくそたけ

おそくたけ

七

同

こみたけ

こそくたけ

全

一種

鬼益附録

きつねみたけ

茅花の煮ふて

全

地芥

一種

鬼筆附録

全

同

きつねのこりさふく

まつねんたけ

竹蓐ちくそ

一種

あまらのこりさふく

さくこ

全

同

あまらたけ

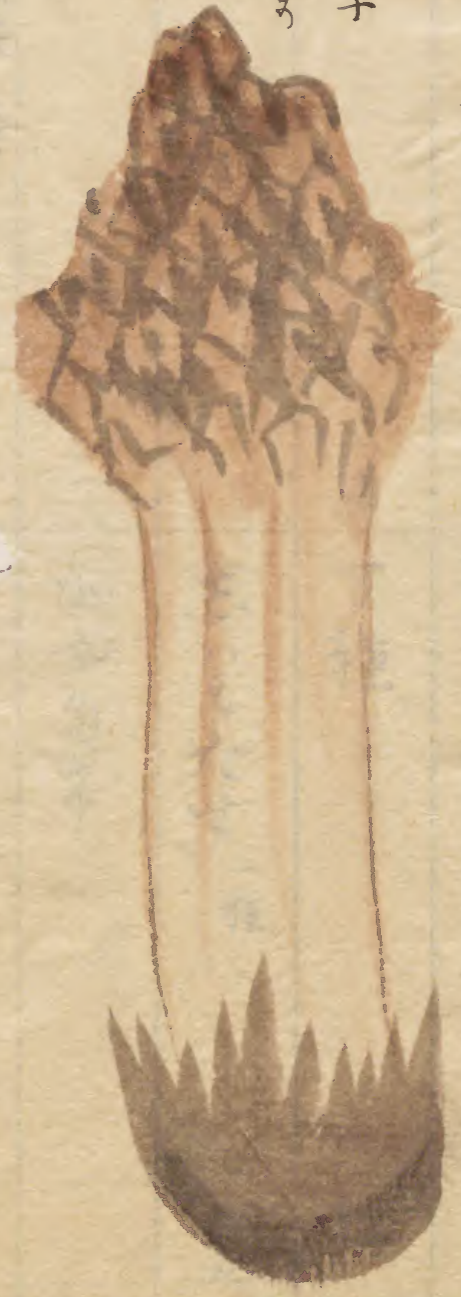
はくたけ

全

仙人帽

きぬのたけ

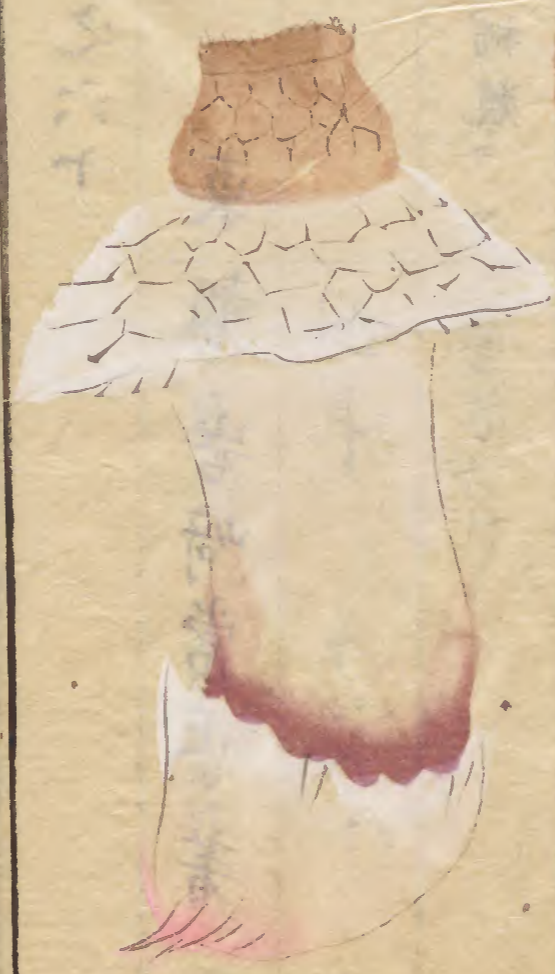
あまの八王子
山中に生ずる



七ヶけるあめ

蘭語を載る菌類

その帽茶碗包其
衣薄く白色根下
淡紅色の陰樹下に
生ずるといふ

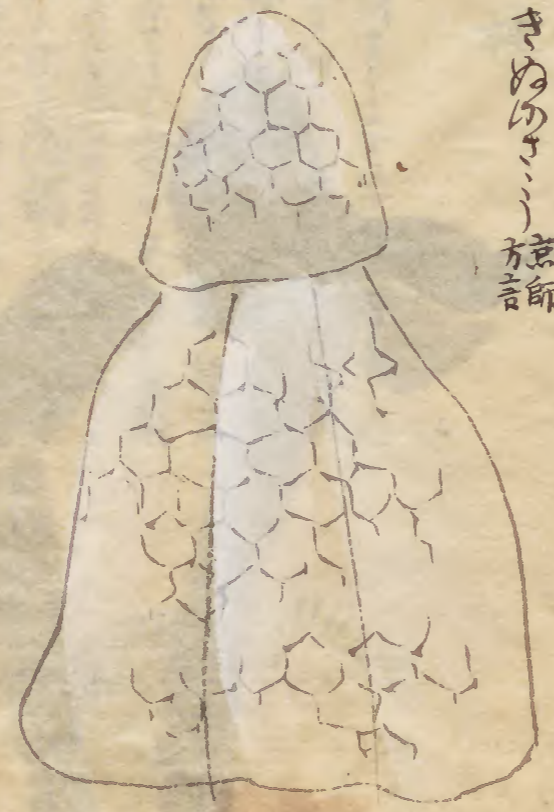


虚無僧たけ

きぬのたけ 方節

たけたけ

菌語を載る菌類
載帽の如く全形
白色根下茶碗
色帽衣とも薄
く絲網の如く好
陰湿の地に生ずる



あみかたけ

楠木氏
の菌



きぬのさけ

菌史子載る図

河まかたけ
武州道灌山
産す食すな
用る



つきよたけ二種

菌譜に載る同書に平原茅草下子
生すもの古地に似たり又一種石苔根鉢
木の朽木横倒たるもの生る形硬本草
の如く紫黒を夜多光りあり余野山採集
の時友人採ると全く山中の栗樹の空根
に生るものを見たり香茸の如く仍て
これを得て家子ゆり酒釀とせん食す
る者皆腹痛吐瀉する心子様子を煎り
服さしめて漸く解す故に知以菌の大小
毒ありしを余幸のりて灸すことを
得たり謹て戒むるんば可なりと



つぎよたけ

菌類を載る図を書ふ秋大志の
似て八月多生す若人誤て之の
と若して食すと毒に必死に吐瀉腹
痛或は狂走甚しきもの死す
至る此の菌類を光樹根の故に名つ
又早服たけといふもの早服たけ
ありこれ等を食て死す早服たけ
阿多へんといふあり



つぎよたけ 夜ひかりあ
かひすき

あめつ、州

日光菌類を載る図
あめつ木を生きて毒あり
り日木へけかへけと
云て猿のの串にけ
の軟らあるものを生す
か事ありこれを食べ
毒あり

とくたけ

菌類を載る図あり
其蓋半は青色半は紅色
茎白色あり大毒あり人を
殺すといへり



あめたけ どりたけ

日光菌類
を載る図



火燭くまろ ぐけ

菌類を載る菌云々
状細糸の珊瑚の如く
其色紅赤火の如く
ゆるら如く高さ三五寸大
あり身のたま子至多
ありといへり

とくぐけ

同書に載る菌
云々其火燭
の如く紅赤
根黒く現る
ありと



とくぐけ
日光菌類を載る菌

あくもたけ

着過る載る菌類史の形は菌の
似て稍しく色灰白好て竹林中枯
葉の堆積に如く生れこれを食べ
貝毒人を一て笑へりむか笑菌の
類類物。云々のいへり

つたれ わくそたけ

同書に載る菌類史の形は
濕穢の中を生け身黄赤如
最生れ如く名つく綴張て甚薄
く中微く赤く其類鬆虚面
黒色柄と茎多し手これ
解れん則ち毒の者なり蓋し
腫痛を致し吾人因てこれを
つたれと名つとち



わづたけ

こもくたけ

信州菌類の
載る菌類草
の上品生れこれ
を食すと実
別味いふと云う



まぐろたけ

信陽菌類の載る
菌類草の上品生れ
を食すと実
別味いふと云う



こもくたけ

菌類の即ちひたけの
質稍硬く実者色美
白或種ある或は味ひ苦
く其毒へい多けり此を
は穢しといへり

こもくたけ



こもくたけ

栢^本の園

こみたけ



こもたけ

菌^史の園



こもたけ

同書子
載る園

一種

楠布^白の
園夏^至子
生^れ粉^粉
のふく^ろの
ぬ^いと
ま^り



本草綱目 卷之六十一

鬼蓋録附

子つねのちい
子つねのち

菌譜が子載る図同書
子又梅の陰莖と名つ
初生すと身は彈丸の
如く思ち長くはりて其の頭
紅色とち莖は淡く赤い包
切此亦朝生暮萎
の菌ありや児呼ぶる物
潮莖とちとり



子つねのちい

庶物写生
子載る図

子つねのちい



本草綱目 卷之六十一

本草綱目 卷之六十一

地苓 附録

一種



鬼筆 附録 きつねのふし

きつねのふし

昔過し載る菌史より夏
霖雨の後樹林苔菌蔚の如し
生ん其形未脚状極筆の如く
柔巖中塵日を見て即ち
死片塵粘滑微一具氣あ
りとちり

きつねのふし

菌史より
載る図



本草綱目 卷之六十一

きつねのふし

菌史子
載る園

きつねのふし
きはねのふし

信陽菌譜子載る
図同去子初め地中
在て雞卵の如く且
頭子生て暮子死す
といへり



きつねのふし

省過子載る図
菌史子初生雞子
の如く其て割折
一茎を出頭黒く
亀文子て菜白
色滑即狐のふ
あての異種ちの
といへり



竹蓐



武州青山辺のふんじさの根より
生して形状木耳又ひたけに
似て白色し

一種

志のくけは四五月ころ霖雨の良節
間々生に形木耳と似て甚柔韌解
れり則落つ黄赤色食すと地
きん



たけのこ



菌譜子載る圖
小竹を抱て生す硬木
取の如くして柔軟
白卷を此巻ありと云

たけのこ

たけのこ 陸奥 羽州

菌史子載る圖方々竹の所有者と名く
此菌多く竹林中に生れ故に名く竹實被
脚高長面灰白色より一撮白微靱鮮
美香氣あり稍志めり似て又純白黄
色微褐汚赭色にあり此根下別条
と云形大なりて遠方より竹株中に生
生る物故後子載る



五二二

菌譜子載の菌日赤子状志の如く
竹林中へ生ず紫白二種あり其紫白者
もの味ひ甚佳あり願く竹葉の氣
より白く多きは毒あり皆爾後竹林
根子生んとしへり

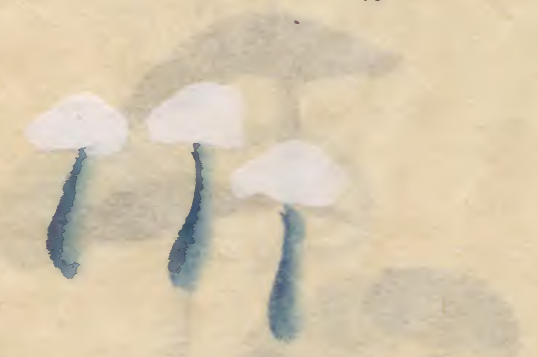


五二二

楠本氏
の圖

さくらけ

日光菌譜
に載る圖



さくらけ

毛菌圖子
に載る圖



法一たけ
普通に
載る



さ、たけ
全上

さ、たけ
全上



一種

方竹の根より
生ずるもの



さ、たけ
菌史に載る
全上を陸上
産すと云へり



一種

菌史子載る園
全書子五月竹
林申子立居る
如と入り

一種
全書子載る園
よく辛味あり
後園竹葉中子
生ると入り



七つハカシヤ種
こし大木

菌誘子載る園曰
書と平野及杉林
中子生ん状ふこり
似て茎細く蓋莖
と子黄褐色味
淡味毒弱と云ふ
べとと入り



藟菌

よー大け

香道子載る図

菌史子芦根子

生れり此の菌は

質あり味も美なり

羽多を裁後子也

あ何と云り

加や大け

毛菌図子

載る図



蜀格録附

今図考物に食用子あさり者なり集解の記を全しれ共其形
近きを以て先志を以て載る尚食用とあんものを得補ふべし

やまのり

日光菌譜子

載る図食考

と云る図



ひのたけ

菌類ノ類ノ圖ナリ
松茸ニ似テ莖短ク
赤ク若豆ノ子軟刺
赤ニ其色本褐赤藪
身ノ人ヲ殺スベシ

流るるひのたけ類

全書ノ菌ノ圖ハ
秋月ノ家道傍ニ生
ス蓋シ細クニホ
ノ軟刺アリ赤褐色
柄方淡紅色茎ニ
乾刺者大毒有ベシ



地耳

ほい大け

日光菌類ノ
類ノ圖



本草綱目 卷之六十一

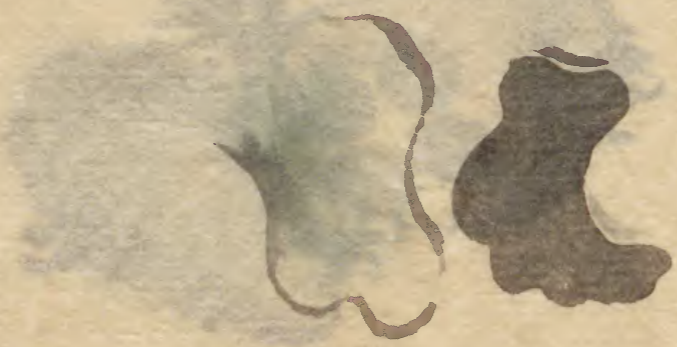
不た人多し

蘭譜に載る蘭
去々地子就て先
彫り牡丹花の如
淡緑を甚た破
木耳の屬物也
云々



いと大け

蘭史に載る蘭より去々地子に似て
薄柔軟綿々如く面黒く色青赤
裡青白或は微紫を帯ぶ層
々如き一と云々の形如く
味稍苦くけり似て凡勃則遠紀
人の曰深山崖石に大雪の後日の芝子
遇て即生るといへり



本草綱目 卷之六十一 十八

いすたけ

信陽園譜
載る園云く侯中
の者田中の者子及
よふとりへり



